

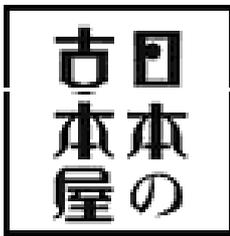
えぽっく

第2巻7号通刊16号 2001年10月25日発行
合資会社金井書店発行 営業本部編集
〒161-0032 東京都新宿区中落合4-21-16
TEL 03-5996-2888 FAX 03-3953-7851
URL <http://www.kosho.co.jp>
E-mail office@kosho.co.jp

漫画文化・考

今年、「21世紀のコミック作家の著作権を考える会」が「新古書店でのコミックの売買に反対する」等の趣旨のアピールをされておりました。

このところ、
ないのですが、
等の売上は減少
特に、コミック
率が高いようで
みならず、古書



コミックに限ら
新刊書籍、雑誌
傾向にあります。
関係はその減少
ですが、出版界の
店も同じ傾向で
ク関係の読者は、

インターネット、携帯電話、マンガ喫茶、図書館などに
関連するところが大きく、「マンガは買って読むものでは
なくなつた」と言われるようになってきました。

作家の皆さんは、発行部数が伸びなければ著作権料が
伸びません。収入が増えないわけですから「考える会」
が出来るわけです。

しかし、売れなくなったのはコミックだけでなく、書物
全般に拡大しています。文字文化は無くなると信じて
おりますが、その媒体は大きく変わることでしょう。
この変化を前提に将来を考えていかないと何ら解決しな
いのだろうと感じております。

先日、「考える会」の関係者の方とお話しする機会が
ありましたが、著者・出版社・流通小売・お客様、皆
さんが共生できる“書物文化”を創造していくことが大切
であるとおっしゃっていました。古くから、古書業者は
営業しており、貴重な文献を世に送り出すこともしてき
ましたし、日常的には、リサイクルの先兵として活躍し
ております。地球環境を考えた時、“リサイクル”は絶
対に無視できないテーマです。書物の適切な環流には私
たちも勉強して、お客様に喜ばれるように努力してゆき
たいと思いますし、一冊でも多くの書物を所有してい
ただけよう、ニーズにあった品揃えを推進したいと思
います。著者・出版社の皆様も、所有していただける魅
力的な出版企画にご尽力頂きたいと思ひます。“文化”に
携わるものは、経営的に苦しくとも、永続させる努力が
大切だと思います。

今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

金井書店グループ営業本部 花井敏夫
スタッフ一同

スタッフのメッセージ

先日、友人の作品展示を見に行きました。

ある街を舞台に、表現を試みているものです。古い
家屋や商店街、狭い路地はまるで迷路、そこに点在す
る作品たち。街があって作品があるのか、作品があっ
て置かれた場なのか...人には様々な思考や感情があっ
て、表現の仕方があって、そのそれぞれが面白いもの
です。

そういった生きた刺激はじんわりと身体に行きわたり、
確実に脳を活性化してくれます。

例えば、私にとって、おそらく多くの人にとって、
最も身近な表現が言葉を使うことであつたりするのでは
ないでしょうか。感じや思いなど、もやもやとして
いるものを形にすること、そして言葉になった情報が
他人に伝達することで成る関係というもの、そういった
過程と伴う思考には計り知れない奥深さを感じま
す。

今ではこうして本というものに関わつて毎日を送つ
ている私ですが、以前は本を読むことに熱心になれな
かつたのです。本と急接近したきっかけは何だただ
ろうとふとふり返ってみると、歳を経るにつれて複雑
になっていくもやもやに対して、あてはまる言葉が見
つからなかつた時の不安な気持ちからだつたような気
がします。私にとっての本は娯楽というより、他人の
表現に触れることで言葉を自分の中に蓄積し、自らで
不安を癒す力を得るためなのかもしれません。

身体を動かすことも、贅沢な食べ物も旅もあまり縁
がなく、私にとっての秋は、歳を一つとるとともに自
分を追いつめてみたくなる季節です。

今日も相変わらず物思いにふける秋の夜長を過ご
しています。

R.S.Books 軽部こず恵

RETRO = 懐古趣味
REVALUE = 再評価する
RECYCLE = 再利用、環流する



TEL & FAX 03-3272-2888
営業時間 10:00~20:00



TEL & FAX 03-5204-2888
営業時間 10:00~20:00
(土日祝 11:00~19:00)

〒104-0028 東京都中央区八重洲2-1 八重洲地下街
年中無休(元旦のみお休みさせていただきます)

ご意見ご感想ご提案をお待ち申し上げます。

GLASSのおはなし

前回の特集はワインでしたが、いかがだったでしょうか。ほんの少しでも、ワインを飲んでみようかなあ、と思って頂けたとしたら、嬉しいことです。ワインを飲むなら、どんなグラスで飲みますか？ノーマルなのは、もちろんワイングラスですね。バカラやマイセンクリスタル、ボヘミアガラスにヴェネツィアングラス、モーゼル。日本の伝統工芸である切子のグラスも、素敵ですね。美しいグラスに入れて飲めば、ワインだけでなくビールや、ジュースや、ただの水でさえも、なんとなく美味しく感じてしまうのは、私だけでしょうか。

ガラスの素材は、言わずと知れた『ガラス』です。では、『ガラス』とは、いったいどんなものなのでしょう。ガラスは、その素材からして、人工物です。もちろん、天然のガラス素材が全く存在しないわけではありませんが、一般的に私たちが目にするガラスのほとんどは、紀元前の昔から試行錯誤をくり返して、磨き上げてきた人間の知識と努力の結晶なのです。現在では、ガラスは日常生活において、必要不可欠なものとなっています。普段使いのグラス類は言うに及ばず、窓や花瓶、食器、灰皿、ランプ、ペーパーウェイト、装飾品……今や、ガラスのない家は、まずないでしょう。また、生活だけでなく、宗教や芸術などの分野においても、『ガラス』は重要な役割をはたしてきました。その中でも、ガラスは、最も人々に愛されてきたガラス製品のの一つです。そこで、今回は、その『ガラス』を中心に、ガラスの素材『ガラス』に焦点をあててみました。

< 古代のガラス >

ガラスの始まりは、装飾品や印章といった、小さなものたちでした。もちろん、技術的な問題もあり、ある程度の大きさ以上のものは作れなかったというのが現状ですが、それでも紀元前2000年頃には、ガラスの容器が作られ始めました。ガラスの容器が最初に姿を表したのは、西アジアとエジプトです。そこから、アッシリアやフェニキアといった地域に広がってゆくこととなります。当時の人々にとって、革命的ともいえるこれらの品々は、現在の私たちから見ても、色、形、文様、どれもとても素晴らしいものです。もっとも、まだ無色透明なガラス器製造の技術はなく、完全とはいえないまでも、透明なガラスの登場は、ローマ・ガラスまで待たなくてはなりませんし、当時の人々にとって、ガラスは大変高価なもので、王侯貴族といった人々しか、手に入れる機会はありませんでした。

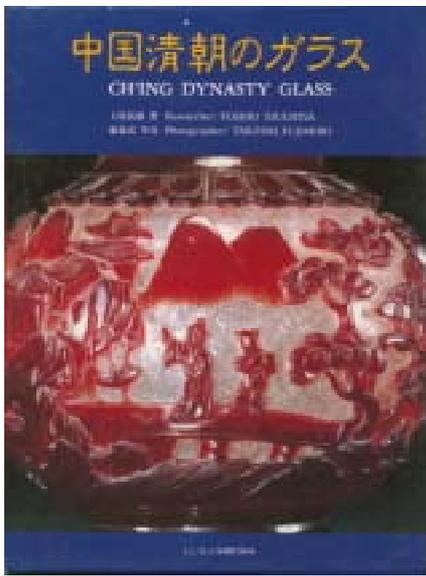
< ローマ・ガラス >

ローマにおいて、初めて、吹きガラスの技法が開発されると、一般の人々の間にも、急速にガラスが普及してゆきました。また、透明なガラスが登場することによって、いままでのような貴石の代用品ではないガラスの魅力に、人々が目を向けることとなりました。切子やエナメル装飾なども開発され、動物や植物、神話、聖書、といったモチーフも使われるようになりました。シルクロードを通して、中国や日本にもたらされたガラスは、これらの時代のもので、有名な正倉院の白瑠璃椀も、そうしたものの一つです。

< ヴェネツィアングラスのはじまり >

ルネサンス時代のイタリアは、まさに文化と芸術の黄金時代でした。そうした時代に生まれたヴェネツィアングラスは、繊細で華やかでまさに職人技、芸術作品そのものです。今までにない、現在では幻といわれるような技法も含めて、新しい技法や装飾も登場し、ガラス製作にますます磨きがかかりました。現在における無職透明なガラスは、ルネサンスの前世紀に開発されましたが、このクリスタッロと呼ばれるガラス器は、その透明性を最大限に引き出す、無彩色で仕上げられました。ヴェネツィアングラスの代表である、レー

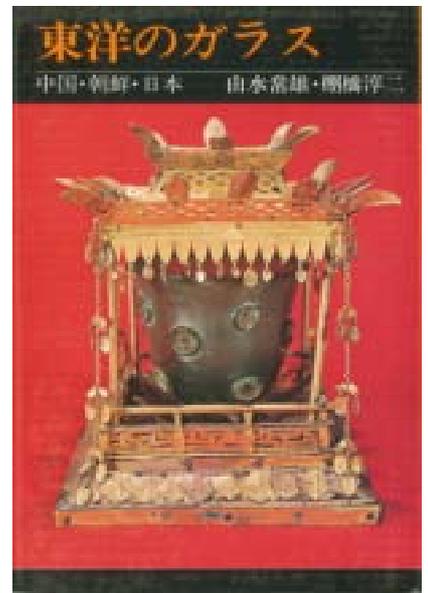




スグラスも、こうした時代を背景として、生まれました。また、それらに触発されて、ヨーロッパの各地で、盛んにガラスの製造がおこなわれ、そうしたなかで、ボヘミアをはじめとする各地域で、今に続くガラスが、生み出されていたのです。

< 中国のガラス >

中国では、ガラス器はほとんど発達していません。中国は、昔から磁器の生産がさかんで、それに押された形となったのでしょう。貿易により、他国のガラスは流入していますが、自国での独自の制作作品は、技術水準、バリエーションともに、みるべきところは、ほとんどありません。唯一の例外は、清朝のガラスです。乾隆帝の時代が最盛期だったところから、「乾隆ガラス」ともいわれるこれら



のガラス器は、諸外国に類を見ない、個性の強いガラスです。乳白色や黄色の不透明な素地に、様々な色のガラスを被せたこれらの製品は、一見磁器や貴石の細工物としか見えません。もともと、中国においては、玉や象牙といった素材が好まれ、ガラスは、あまり価値を認められませんでした。そのため、イミテーションとして発達してきたというのが、この「乾隆ガラス」に端的に現れています。しかし、アール・ヌーボーの代表的な芸術家、エミール・ガレの作品を見るとわかるように、そのあまりにも独創的なガラス類は、後年の芸術家たちに、多大な影響を与えることとなったのです。

< 日本のガラス >

日本のガラスは、まず長崎でつくられました。今でも、長崎びいどろとして、知られており、江戸中期には、舶来品には及ばないものの、国産では一番と位置付けられていました。長崎から遅れること約100年、江戸でも、ガラスの製造がはじまりました。それに次いで、薩摩でもガラス製品の製造が行なわれるようになり、様々な試行錯誤の後、舶来品のカットグラスを手本に、切子が作られるようになりました。江戸切子と薩摩切子の始まりです。江戸切子は、舶来のカットグラスを手本にしたものが特徴です。また、薩摩切子は、被せてある色ガラスの色彩が鮮やかで、特に黄色は、薩摩切子ならではのものです。こうした日本のガラスですが、開国から明治維新にいたる幕末の動乱が遠因となり、一時は衰退の一途をたどり、当時のガラスの面白いところは、重箱や文具類といった、現在ではおよそガラスからは遠いところにあるものまで、作られたことです。江戸の人々は、ガラスの重箱に、おせち料理を盛り付け、お正月を祝ったりしていたのかもしれませんが。



庶民の生活用品をモチーフとしたデザインが多く、薩摩切子は、舶来のカットグラスを手本にしたものが特徴です。また、薩摩切子は、被せてある色ガラスの色彩が鮮やかで、特に黄色は、薩摩切子ならではのものです。こうした日本のガラスですが、開国から明治維新にいたる幕末の動乱が遠因となり、一時は衰退の一途をたどり、当時のガラスの面白いところは、重箱や文具類といった、現在ではおよそガラスからは遠いところにあるものまで、作られたことです。江戸の人々は、ガラスの重箱に、おせち料理を盛り付け、お正月を祝ったりしていたのかもしれませんが。

現在では、これらのガラスに触れる機会は、あまり多くはありません。古代のガラスについては、美術展や博物展などで、実物を目にする



することもできますし、昔からの技を今に伝える、新しい製品は別ですが、中世以降の、商品価値の附随するものについては、なかなか難しいのが現状だと思います。しかし、昔に比べ、アンティークショップなども増えてきましたので、そういったお店に足を運ぶのも、楽しいものです。自分で購入するときはもちろん、ただのひやかしでも。

さて、今回は、芸術です。ガラス芸術の筆頭に名前が挙がるのは、先にもちらりと登場した、エミール・ガレや、ルネ・ラリックでしょう。今回は登場しませんが、今回は、彼らの活躍したアール・ヌーボーの時代を取り上げて、アンティークの世界に遊んでみたいと思います。

(川上亜衣子)

半世紀ぐらい眠った 書物はありませんか？

古～い本、雑誌は捨てる前にご相談ください。

確かに評価できない書物も沢山ありますが、残さなければいけない、大切な書物もあります。

百科事典・文学全集・美術全集など情報が新くなっている、文章が新仮名使いに変わって新しく出版されている物は新しい程良いのですが、装幀がよい本、木版画が入っている本、時代をあらわした雑誌など、生かせるものもあります。

埃の量と本の価値は、正比例するか反比例するか。回答はケースバイケースです。ご連絡をお待ち申し上げます。

メンバーズカード受付中!!

金井書店グループメンバーズカード

ご利用額UPで 特典UP 最高30%OFF

売っても 買っても 特典付
店舗毎に特典が工夫されています
特典内容は各店でご確認ください

八重洲古書館・R.S.Booksに、
ご来店の上お申し込み下さい。



従来の、ポイントカードはメンバーズカードに
移行させていただきますので、ご了承ください

メンバーズカード会員様へ プレゼント

大丸ミュージアム・東京
この美しさは、何ものからも自由である。

【石本正展】

2001年11月1日(木)～13日(火)

入場券プレゼント

八重洲古書館・R.S.Booksにてお買上の際にメンバーズ
カードをご提示の上、お申し付け下さい。
1名様に1枚、各店先着15名様限定。
=店頭にある割引券はご自由にお持ち下さい=

R.S. Books

ゆったりとした空間と、
選りすぐりの書物を用意しました。
時代を刻んだものとの
素敵な出逢いを愉しめる、
新しい形のブックショップです。

TEL & FAX
03-5204-2888

東京駅・八重洲地下街



在庫5万冊、
新しい本から価値ある本まで
幅広い品揃えで話題の店。
読み終えた本、昔の本を
お売りください。

TEL & FAX
03-3272-2888



<http://www.kosho.co.jp>